

韓国の外国語教育及び外国語としての韓国語教育におけるCEFR導入・応用の現状—実例を中心に—



東京外国語大学大学院 博士後期課程 ソ・アルム

資料説明

- ⑧ レジюме
- ⑧ 資料1 開院九周年記念国際学術大会報告—成功的な外国語教育のための基準設定
- ⑧ 資料2 延世大学校英語認証プログラム概要
- ⑧ 資料3 ユン(2008)のポートフォリオ・モデル
- ⑧ 資料4 グォン(2009)の「ドイツ語教育課程におけるレベル分け記述一覧」
- ⑧ 資料5 韓国におけるCEFR関連文献リスト(学術誌・学位論文)
- ⑧ 資料6 韓国における主要大学の概要および交流校、GPA評価システム一覧

発表の流れ

- ☞ 調査背景
- ☞ 韓国におけるCEFR導入の現状
- ☞ CEFR導入および応用実例
 - 実例① 延世大学校の英語認証プログラム
 - 実例② ユン(2008)が主張する自己主導学習
 - 実例③ グォン(2009)が提示する「ドイツ語教育課程におけるレベル分け記述一覧」
 - 実例④ 国際通用韓国語標準模型
- ☞ その他の参考事例:FLEX
- ☞ 考察、今後の展望

調査背景

体系的で国際的な
参照枠に対する認
識不足・必要性の
欠如

CEFRの翻訳版
が2007年発表

CEFR関連学術大
会や論文、学術誌
など、活発に研究
が行われている

**韓国における外国語教育、及び外国語としての韓国語教育において
CEFRがいかなる形で導入・応用されているかについての調査報告**

韓国におけるCEFR導入の現状

☞ CEFR関連シンポジウム

- 成功的な外国語教育のための基準設定(Successful Language Education: Setting Standards) (2007, 韓国教育課程評価院主催)(資料1)
- 言語学習・教授・評価のためのヨーロッパ言語共通参照枠(CEFR)による教育課程と評価の標準化 (2008, 在韓ドイツ語文化院・学術振興財団DAAD共同主催)
- ヨーロッパ言語共通参照枠と韓国のフランス語教育(Cadre Européen Commun de Référence et Enseignement du français en Corée)(2011, 韓国フランス語文教育学会主催)

☞ CEFR関連論文や学術誌(資料5)

韓国におけるCEFR導入の現状

- ☞ CEFRを中等教育や高等教育における外国語教育に適用しようとする動きはあるが、国家次元での事業としては行われていない。
しかし、国際的な共通参照枠組みの設定の必要性は感じている
- ☞ 大学などの高等教育機関や研究者などを中心に、CEFR導入・応用の必要性が高まっている状態。

本調査では、高等教育機関や研究プロジェクトにより行われたCEFR導入・応用の実例を紹介する

実例① 延世大学校の英語認証プログラム

☞ 延世大学校(Yonsei University)(資料6)

- ソウル市西大門区に本部を置く韓国の私立大学。
- 1957年に設置された総合大学。
- 外国語関連学科としては、英語英文学、中国語中国文学、ドイツ語ドイツ文学、フランス語フランス文学、ロシア語ロシア文学科がある。
- 日本の大学における姉妹協定校としては、東京外国語大学、慶應義塾大学、東京大学、京都大学、中央大学、明治大学などが挙げられる。

実例① 延世大学校の英語認証プログラム

延世大学校1年生大学英語プログラム(資料2)

- 英語で行われる授業を受講するための基礎となる英語実力を養い、社会でも深度のあるコミュニケーションができるようにすることが目的。
- 2010年から実施。

英語認証プログラム(資料2)

- 学生のアカデミック英語能力を向上させることが目的。
- 2010年から実施。

上記の二つのプログラムは、
韓国国内の大学の中で、
初めてCEFRを取り入れた実例として挙げられている。

実例① 延世大学校の英語認証プログラム

延世大学校1年生大学英語プログラムにおけるレベル分け

レベル		説明
高級大学英語	B2	B2レベル：比較的複雑な内容が理解でき、自分の意見を言葉または文章で表現できる段階。
大学英語	B1 A2	A2, B1レベル：学習者になじみのあるテーマを用い、コミュニケーションすることができる段階。
大学基本英語	A1	A1レベル：基礎的な英語能力を学習する段階。

- 本プログラムの目標レベル: B2

実例① 延世大学校の英語認証プログラム

延世大学校の英語認証プログラムにおけるレベル分け

レベル	説明
最高栄誉認証 (Certification- High Honors)	C2 いちばん高い水準の英語能力を獲得した学生
栄誉認証 (Certification- Honors)	C1 最高栄誉認証に続き、とても高い水準の英語能力を獲得した学生
高級認証 (Certification- Advanced)	B2 1年生の大学英語プログラムのうち、高級大学英語の水準に該当する科目を履修した学生
延世英語認証 (Yonsei English Program)	B1 1年生の大学英語プログラムのうち、大学英語水準の科目を履修した学生に卒業要件が満たされたことを認証する。

- 本プログラムの目標レベル: C2
- 「1年生大学英語プログラム」の延長としてのプログラムである。

実例① 延世大学校の英語認証プログラム

英語認証プログラムのプロセス

- 入学時、英語診断評価（「書く」 & 「話す」）を受け、その結果によりレベルが分けられる。

※ただし、英語診断評価の代わりに、外部検定試験の成績を参考にレベルを評価する場合もある。

種類	スコア	受講科目	目標レベル
TOEFL iBT	105点以上		
	Speaking 25 以上	→ 高級大学英語Ⅰ 免除	C1
	Writing 25 以上	→ 高級大学英語Ⅱ 免除	
	90点以上		
Speaking 21 以上	→ 高級大学英語Ⅰ 受講	B2	
Writing 21 以上	→ 高級大学英語Ⅱ 受講		
IELTS	Band Score 8 以上		
	Speaking 7.5	→ 高級大学英語Ⅰ 免除	C1
	Writing 7.5	→ 高級大学英語Ⅱ 免除	
	Band Score 7 以上		
Speaking 6.5	→ 高級大学英語Ⅰ 受講	B2	
Writing 6.5	→ 高級大学英語Ⅱ 受講		

実例① 延世大学校の英語認証プログラム

∞ 期待される効果

- 他大学への波及効果
- 英語だけでなく、他の言語への拡大が期待
- 姉妹校へ交換学生を派遣する際、英語能力を客観的に伝えることのできる指標を提供
- 学生は、自分の英語能力を把握することにより、これからの学習計画設計が可能

∞ 疑問点

- 英語診断評価で、なぜ「聞く」、「読む」のような理解力の判断できる領域は設けられていないか。

実例② ユン(2008)が主張する自己主導学習

ユン(2008)が提示するポートフォリオ・モデル(資料3)

- 韓国におけるフランス語教育で「自己主導学習(l'apprentissage auto-dirigé)を広め、望ましい教育・評価の方向を模索することから、韓国の高等学校におけるフランス語学習者に対する実践的な評価方法を考案。

- CEFRに提示されている「言語ポートフォリオ」、「言語学習記録」、「作品集」を参考にし、ポートフォリオを教授や学習における一つの材料として使用することを目的としている。

実例② ユン(2008)が主張する自己主導学習

ユン(2008)が提示するポートフォリオ・モデル(資料3)

分類	説明
対象	韓国国内でフランス語を学ぶ韓国の高校生
制作方法	担当教師が個別的に作成して提供するか、教材を出版した出版社から、テキストやワークブックとともに配布する
作成期間	フランス語Ⅰ(週3時間基準、総100時間) フランス語Ⅱ(週2時間基準、総70時間)の全課程にかけてポートフォリオを完成させるようにする。
目的	評価道具(自己評価、形成評価、課程評価) 学習道具(フランス語授業との並行)
構成	「言語ポートフォリオ」、「言語学習記録」、「作品集」に基づき、学習者である「私」の言語的発達過程を記録する道具になるように項目を構成
評価方法	学習者による自己評価 学習者および教師の定期的なフィードバックによる遂行評価
注意点	学習者が表現しようとする内容と目標言語水準の乖離 →韓国語やその他の言語(英語など)、絵文字で記入する →学習レベルの向上により、記録内容をフランス語に書き換えたいときは、既存の内容を残したまま、同じ内容をフランス語で作成する

実例② ユン(2008)が主張する自己主導学習

期待される効果

- 学習者のモチベーション・学習効果の向上
- 量的評価だけに集中されていた韓国の高校外国語教育における質的評価への変化
- 教師と学習者の双方コミュニケーションを図る
- 学習者は、自分の言語能力を把握し、これからの学習計画を立てることができる
- 教師は、学習者のレベルや言語発達過程を把握し、方法的な改善および矯正を行うことができる

課題

- 量的評価を完全に排除することはできないため、「信頼性」、「妥当性」、「実現可能性」を考えた効率的な量的評価と質的評価を調和する方策を探ることが望ましい。

実例③ グォン(2009)が提示する「ドイツ語教育課程におけるレベル分け記述一覧」

⌘ 長老大のドイツ語教育課程の概要

分類	説明
学制	2学期制
学習期間	2年
対象	神学科、キリスト教学科、教会音楽科 *高校で日本語や中国語を第二外国語として学んだ学生が多い(グォン 2008)
目的	1)ドイツ語を、ドイツの文化および言語など、学問的な知識を身につけるための手段として用いることができるようにする。 2) グローバル社会に必要な人材育成および宣教活動に必要な言語的手段として、国際的レベルに近い言語能力を学習させる。
授業時数	1年生：週4時間(年120時間) → 必須科目 2年生：週3時間(年90時間) → 選択科目

A1

A I -1,
I -2,

A2

A II -1,
A II -2

実例③ グォン(2009)が提示する「ドイツ語教育課程におけるレベル分け記述一覧」

∞ ドイツ語教育課程におけるレベル分け記述一覧(資料4)

- 各講座における学習目標や内容を設定し、教育課程の枠組みの中で、学習者が効果的にドイツ語を学べる環境を作り上げたことに意義がある。
- オフラインだけでなく、オンラインでもドイツ語の学習ができるウェブ基盤学習システム(e-Deutsch)を構築し、高い学習効果を得ている。

∞ 今後の課題

- 長老大のドイツ語教育における学習目標は、「学問的レベル」を目指しているため、B1・B2を最終目標として設定する必要がある。

实例④ 国際通用韓国語標準模型

文化体育観光部
による事業
国立国語院・慶熙大学
校の共同研究

国際通用韓国語標準模型の構築経緯

背景

- 韓国語教育の内容や体系が地域または教育機関により異なっていた
- それらを統合する共通参照枠組みの開発における必要性が台頭

1段階 (2010)

- 韓国語教育における「標準教育課程」を設定。(標準教育レベルを7段階に分類)
- 各レベルにおける学習目標および内容記述カテゴリーを「話題」、「言語知識」、「言語技術」、「文化」に分けて設定した。
- 変異型(世宗学堂模型、結婚移民者模型、社会統合プログラム模型)

2段階 (2011)

- 1段階で研究された「標準教育課程」や変異型の実用性を高めることが目的。
- 「標準教育課程」のレベル分け、内容、内容記述カテゴリーを具体化。
- 変異型の具体化

CEFRの
理念を参照

实例④ 国際通用韓国語標準模型

⑧ 国際通用韓国語標準模型1段階で提示された標準教育課程

- 国家次元での標準化された教育課程の不在という問題提起から、「標準教育課程」を提示した。

韓国語教育課程における
学習レベルの体系を確立

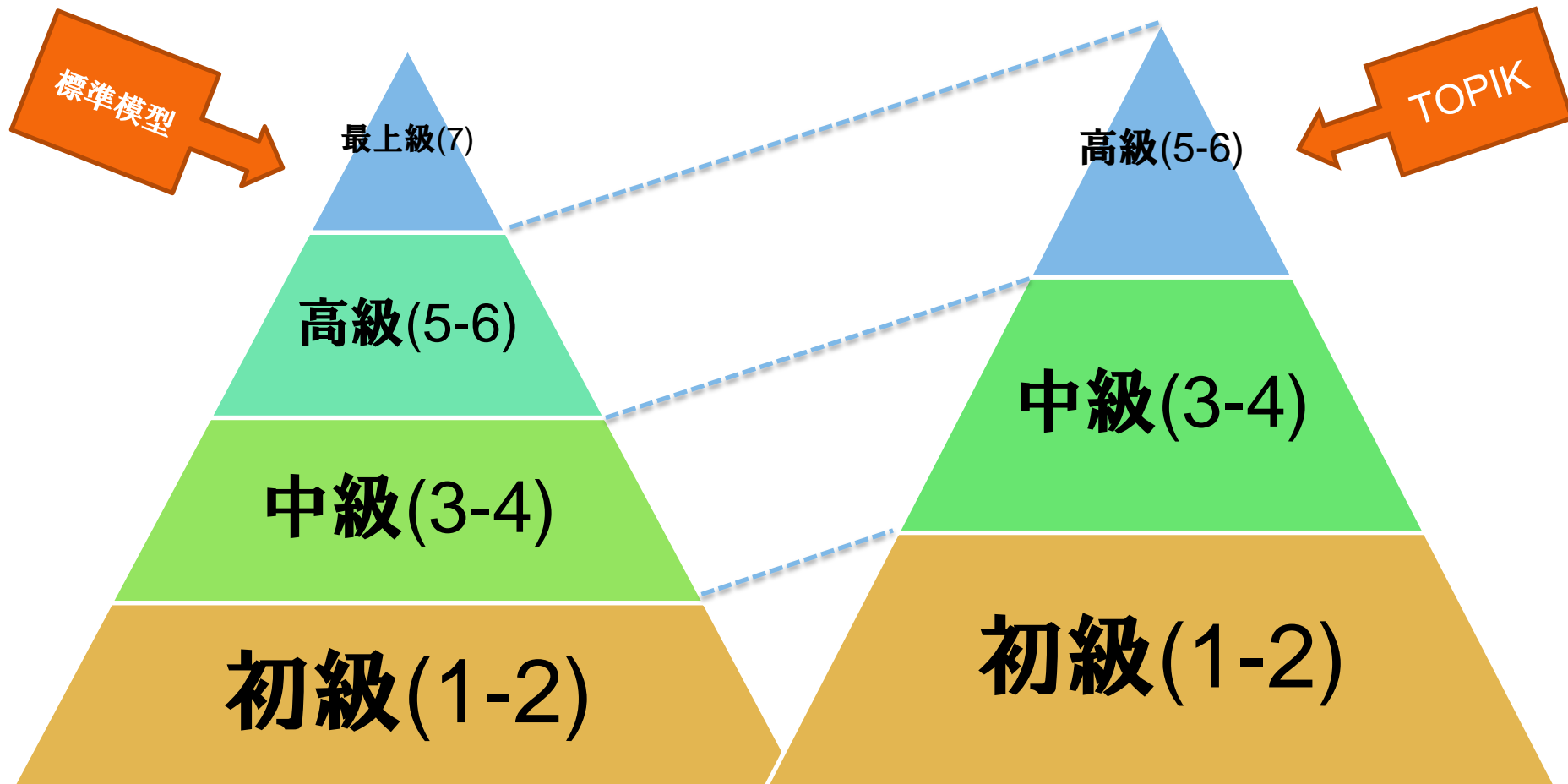
使用の
便利性

韓国国内および国外における韓国語教授・学習環境を整え、
学習・学問目的や就職などの社会活動における韓国語能力の向上を目的としている。

適用の
融通性

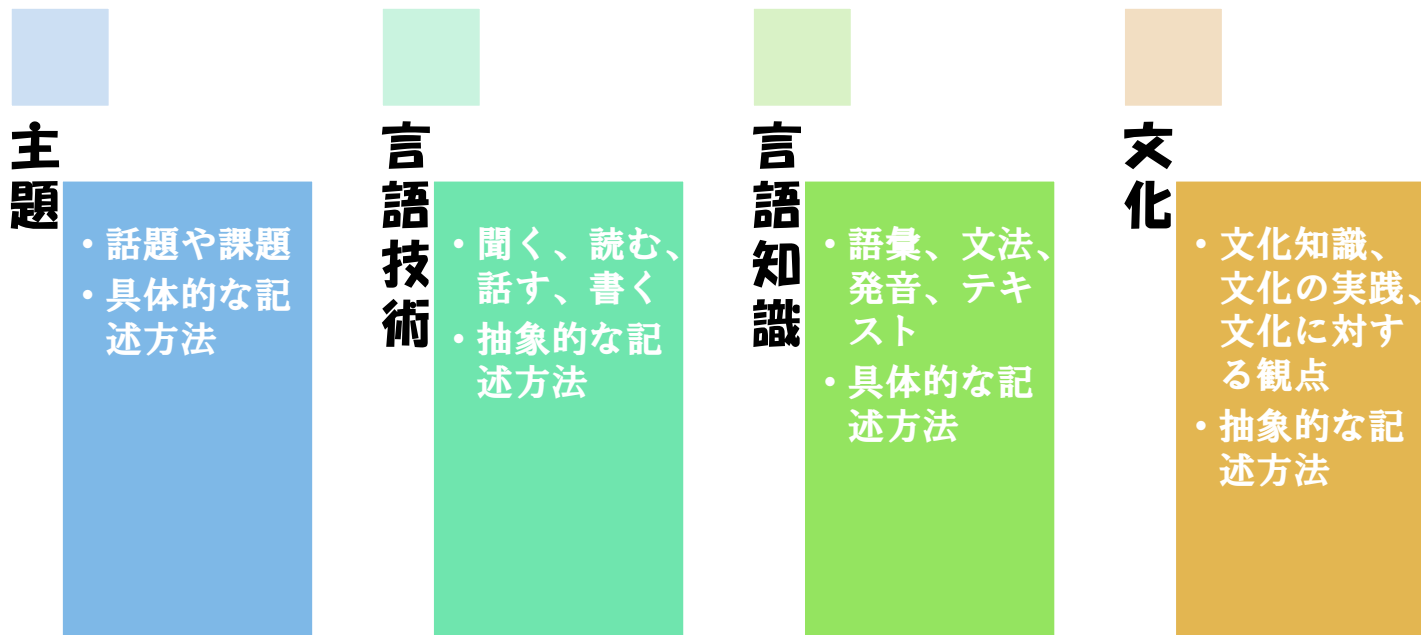
实例④ 国際通用韓国語標準模型

国際通用韓国語標準模型におけるレベル分け



实例④ 国際通用韓国語標準模型

∞ 国際通用韓国語標準模型のレベル記述カテゴリー



实例④ 国際通用韓国語標準模型

国際通用韓国語標準模型2段階

- 1段階で行われた「標準教育課程」のレベル分け、内容、内容記述カテゴリーを具体化。

語彙

- 1段階：感情を表現する基本語彙が分かる
- 2段階：感情表現の下位項目を立て、レベル分け

文法

- 1段階：基本的な時制表現が分かる
- 2段階：時制表現の下位項目を立て、レベル分け

文化

- 1段階：韓国人の行動様式を理解する
- 2段階：行動様式の下位項目を立て、レベル分け

实例④ 国際通用韓国語標準模型

∞ 世宗学堂への適用

- 韓国政府が公認する韓国語教育機関。
- 現在、世界130か所に設置されている。
- 教育課程
 - : 国際通用韓国語標準模型の標準教育課程
- 教材
 - : 国際通用韓国語標準模型に基づいて開発された教材を開発中
 - (初級1,2と中級1,2の教材は開発済み)

**国際通用韓国語標準模型の開発により、
海外の初・中等学校における韓国語標準教育課程
や教材開発研究も活発**

世宗学堂や結婚移民者
プログラム、社会統合プ
ログラムの特徴を考慮



「国際通用韓国語標準模
型」の標準教育課程に基
づいた教育課程を設定



標準化された教育課程
に基づいた韓国語教育
課程の統一性確保

効果

FLEX

🌀 FLEXとは

- 韓国外国語大学校の語学検定試験(1999年に開発完了、実施)
- Foreign Language Examinationの略
- 7か国語における全般的な言語能力が評価できる
(英語、中国語、日本語、フランス語、ロシア語、ドイツ語、スペイン語)
- 大韓商工会議所と共同で実施→国家公認試験としての役割も

委託で
他言語も可

言語能力カテゴリー

- 基礎言語能力
- 生活言語能力
- 実務言語能力
- 原語修学能力

評価領域

- 聞く
- 話す
- 読む
- 書く

レベル

- 1A~3C (9段階)

FLEX

∞ FLEXの活用の道

- 政府機関や公企業、大企業や金融関連会社、大学や外国語特性化高校などで採択・活用
- 外国語能力の認証

∞ 韓国語外国語大学の授業での活用

- 韓国外国語大学校の入試資料、卒業認証試験、複数専攻認証など
- 各言語において、「FLEX」受験のための科目が設けられている
例) FLEXポルトガル語、FLEX英語など
- FLEXのレベルによって語学授業のカリキュラムが立てられていない

考察・今後の課題

☞ 国家課題としての外国語教育政策

：外国語学習の必要性を強調し、教育そのものの目的・目標を定めるのは、国家の課題

☞ CEFRにおける十分な把握

：背後にある文化や歴史、伝統、そして教育や社会の中に存在する方法論をきちんと把握し、共通点や相違点を考えたうえで導入・適用していく必要がある

☞ CEFRの批判的な受容

：そのまま取り入れるよりは、上記のように十分な調査をしたうえで外国語教育における今後の政策決定に取り組むべき

☞ アジア諸語における共通参照枠の必要性

：国際通用韓国語標準模型やFLEXなどにおけるCEFRの適用

参考文献

Council of Europe(2001) Common European Framework of Reference for Languages: Learning, teaching, assessment, Cambridge : Cambridge University Press

グォン・ヨンスック(2008)「社会的ソフトウェアを利用したウェブ基盤外国語学習モデル—長老会神学大学校のドイツ語授業モデルを中心に—」韓国ドイツ語教育学会誌23号、p.1-20、韓国ドイツ語教育学会

グォン・ヨンスック(2009)「ドイツ語教育課程におけるレベル記述のためのヨーロッパ共通言語参照枠の活用」韓国ドイツ語教育学会誌25号、2巻、p.5-25、韓国ドイツ語教育学会

金重燮他(2011)『国際通用韓国語標準模型2段階』韓国国立国語院

教育課程評価院(2005)『第二外国語科教育課程改善法案研究』

吉島茂・大橋理枝(訳、編)(2004)『外国語の学習、教授、評価のためのヨーロッパ共通参照枠』朝日出版社

ユン・ソンヨン(2008)「ヨーロッパ言語共通参照枠とポートフォリオ設計—フランス語学習者のための質的評価モデル開発—」教育課程表か研究11号、2巻、p.47-69、韓国教育課程評価院

ご清聴ありがとうございました。